

JA全厚連情報

(毎月 1日・11日・21日 発行)

883 2009年6月1日

目 次

平成 20 年度経営収支実績と今後の対応等を協議	1
厚生連常勤役員・参事会議	
特別交付税措置に係る助成要請について意見交換	3
特別交付税措置担当者連絡会議	
生活上の安全・安心・健康の確保が重要	4
地域包括ケア研究会が報告書を取りまとめ	
平成 21 年度 D P C 準備病院の募集を開始	5
調整係数の廃止が決定後、初の募集	
通信員だより	
茨城県厚生連看護支援室が「職業理解ガイダンス」を実施 (JA茨城県厚生連)	6
看護の日にちなんだイベントを開催 (JA茨城県厚生連)	7
佐久総合病院祭開催 (佐久総合病院)	8
長野県臨床研修指定病院合同説明会に参加 (JA長野厚生連)	9
お知らせ	
◇会議日程	10



JA全厚連

全国厚生農業協同組合連合会

〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル

T E L (03) 3212-8000 F A X (03) 3212-8008

E-Mail: kanri@ja-zenkouren.or.jp (監理室)

<http://www.ja-zenkouren.or.jp>

編集責任者 瀧 幹男

生活上の安全・安心・健康の確保が重要

地域包括ケア研究会が報告書を取りまとめ

地域包括ケア研究会（座長：田中滋・慶応大学大学院教授）はこのほど、2025年を目標に地域全体で高齢者を介護する地域包括ケアシステム構築のための具体案などを盛り込んだ報告書を取りまとめた。

2025年は65歳以上人口が全人口の30%を占め、戦後のベビーブーム世代（団塊の世代）が75歳以上高齢者に到達する年となる。これによる介護費用の増大が予測されることから、同研究会では、個々人の尊厳を守りつつ利用者のニーズを満たせるような制度を構築していくことが必要であるとして、「ニーズに応じた住宅が提供されることを基本とした上で、生活上の安全・安心・健康を確保するために、医療や介護のみならず、福祉サービスを含めた様々な生活支援サービスが日常生活の場（日常生活圏域）で適切に提供できるような地域での体制」を地域包括ケアシステムと定義づけ、24時間365日を通じてサービスが提供されることが必要であるとしている。

地域包括ケアシステムを支えるサービスは、生活上の安全・安心・健康を確保するもので、個人が尊厳ある生活を地域の中で送るためには、居住環境が整備された住宅を個人が選択できることが必要であるとしている。また、2005年の介護保険制度改革では、地域包括支援センターの創設、居住系サービス（ケア付き居住施設等）の充実、新予防給付・介護予防事業の創設、小規模多機能型居宅介護等の地域密着型サービスの創設、食費・居住費の見直し等、地域包括ケアに関連する改革が行われたが、2025年に向けては、サービスの実施状況を把握しこれらの改革の成果を検証しながら、今後の量的確保について計画を作成する必要があるとしている。

人材面では、高齢化の進行に伴い必要な介護職員が増加する一方、少子化により労働力人口が減少していく中で、介護の質の向上を図る観点から介護職員の専門性を高めるための教育・研修の重要性を指摘している。

介護報酬については、サービスごとの検討に加え、望ましい地域包括ケアシステムの構築という観点からの検討が必要であり、新たな報酬のあり方を構築するには、サービスの質と効果を評価するため、質の評価手法に基づく「標準化されたケア」の明示、「標準化されたケア」をもとに要介護高齢者に適切なケアを実施すること、在宅復帰の重視、在宅復帰後も地域で自立した生活が送られること - の要素をもとに測定が可能となる仕組みの検討が指摘された。

口通信員だより口

茨城県厚生連看護支援室が「職業理解ガイダンス」を実施

(J A 茨城県厚生連)

J A 茨城県厚生連(市野沢弘・代表理事会長)は5月11日、茨城県立日立第二高等学校(佐藤昌弘学校長)にて行われた「職業理解ガイダンス」で、本会看護支援室の中西京子氏が講演を行いました。このガイダンスは同校にて進路指導の一環として定期的に行われており、この日は2年生11人が参加しました。

ガイダンスにて、中西氏は「看護師に就いてはじめて見えてきたこと」と題し、講演を行いました。同氏は水戸協同病院の看護師長を経て、現在は茨城県厚生連看護支援室にて医療の啓蒙活動などに活躍しています。

現在、医療は医師不足をはじめとする多くの困難を抱えているが、看護師の不足もまた切実な問題である。中西氏は病院での実務などを説明し、看護職をはじめ医療全般が人を助けることができる魅力的な職業であることを紹介しました。

参加した学生の一人は「看護師の実務の様子がとてもよくわかりました。また、職場は病院やクリニックだけなのかと思っていましたが、国際救助隊やエスコートナースなど、活躍の幅が広いことに驚き、勉強になりました」と語りました。同校で進路指導を担当する白土章教諭は「こうしたガイダンスが、生徒らの進路選択の一助になればと考えています」と話しました。



生徒らに看護職の魅力を語る中西氏

(赤津俊光通信員)